観光は平和へのパスポート
国連世界観光年宣言

JHSたより

平成25年2月15日(20,000部)発行
2013.2 Vol.47

学校法人 日本ホテル学院
発行所／専門学校 日本ホテルスクール
財団法人 日本ホテル教育センター
〒164-0003東京都中野区東中野3丁目15番14号 TEL.03-3360-8231(代)
http://www.jhs.ac.jp http://www.jec-jp.org/ FAX.03-3360-8584

海外研修／就業紹介の累計816名108ホテル

～グローバルな人材育成への挑戦～

欧米からアジア太平洋地域、中近東、中国、アジアへの拡大

中央：佐藤 誠さん(2004年卒業)
総支配人、同僚と
インド・タージマハル・ニューデリー セールスマネージャとして2010年から赴任

1987年の26年前に海外研修生制度を発足してから、2012年3月末現在で累計816名の新・既卒生が108ホテルで原則1年間の貴重な体験をしました。

制度としては四つで、派遣した新卒生は、
①スイス(1987～2011年101名9ホテル)
②アメリカ(1994～2011年330名19ホテル)
③ディズニーワールド(1995～2011年70人)
④シャングリラ(2000～2011年12名2ホテル)
合計513名31ホテル。これに2012年度生28名を加えると、2012年度末で累計541名31ホテルとなります。

さらに、制度以外、本校を通じて紹介した新・既卒生は、
①オランダ(1996～2011年10名1ホテル)
②ドイツ(2000～2011年18名1ホテル)
③マレーシア(2001～2011年68名16ホテル)
④中国(2001～2011年54名19ホテル)
⑤ベトナム(2001～2011年48名12ホテル)
⑥インドネシア(2001～2011年12名4ホテル)
⑦シンガポール(2001～2011年12名4ホテル)
⑧フィリピン(2004～2011年7名4ホテル)
⑨タイ(2004～2011年6名4ホテル)
⑩モルジブ(2006～2011年30名8ホテル)
⑪アラブ首長国連邦(2008～2011年2名2ホテル)
⑫インド(2010～2011年1名1ホテル)
⑬マカオ(2010～2011年7名1ホテル)
一人の卒業生が複数の国へ赴任した者も含め、合計257名77ホテルとなっています。

なお、2012年3月末現在、海外に就業している卒業生は20カ国77名が確認されており、未確認の卒業生も更に数十名は海外にいるものと推測されます。

本校では、ホテルという多国籍にまたがる業種特性から、職場も国内だけではなく、早くから海外でも開拓してきました。今後は、外国人が日本へ、また日本人が海外へといった、更に労働力の国際化の方向へ向かうものと予測されます。毎年、新卒で海外へ向かう人数も30名前後になっています。ホテル業務を理解し、環境適応ができ、外国語によるコミュニケーションができれば、どこの国へ行っても仕事ができる、これがホテル業界の魅力でもあります。是非、海外就業へも多くの若者に挑戦してもらいたいと思います。

1月末現在で進路内定率91%

－求人・内定は好転へ－

校長 石塚 勉

2013年1月31日現在で、2012年度卒業生総数433名に対して、進路内定者が392名91%、未内定者は38名9%となった。進路内定者の内、学校紹介330名84%（就職294名、海外研修28名、進学8名）、自己就職53名13%、その他留学生帰国等12名3%。なお、学校紹介による就職希望者301名に限定すると、就職内定者294名98%、未内定者7名2%で、対昨年では、33%の内定増の早期内定となり、今年度の就職戦線は、9月末での予測通り、過去3年間の氷河期を脱し、4年前の状態に好転しました。

この背景には、一般のデフレ経済下で、人員整理や採用控えが限界に達し、経営状態の上向き傾向に鑑み、採用に踏み切ったことが主要因と考えられます。これに加えて、学校と企業との情報交換を密にする、本校独自の情報ネットワーク「J-NET」を有効に活用し、学生への情報提供をこまめにするなど、教職員全員が協力しあい、進路指導向けて努力した結果でもあります。もう一息です。最後の一人まで、頑張りましょう。

昨年3月末で卒業生が10,000名を超え、全国の主要なホスピタリティ関連企業に多くのOBがおります。JHSのOBネットワークとしての相互支援も期待しています。

グアムで活躍する研修生：Hilton Guamu Resort & Spa

2012年度　第21回弁論大会を開催
～10名の弁士　最高のパフォーマンスを披露～

審査員の方々と弁士10名

【審査結果】

「日本語部門」
最優秀賞　篠田 彩央里さん　“Don't be shy”
優 秀 賞　姜 美玲さん　“ 初心 ”

「英語部門」
最優秀賞　兼山 智雅さん
“Meaning behind everything”
優 秀 賞　金 花さん
“The sprit of Omotenashi”

左から　石塚校長、矢島氏、兼山さん
フィリップ ルデサー氏、篠田さん、
アイヴァン ディーチー氏

11月13日、なかのZEROホールにて第21回弁論大会が盛大に開催され、全校在校生約900名、ホテル総支配人の方々などのゲスト審査員18名、内部審査員5名、教職員30名、計約950名の聴衆を前に予選を通過した日本語部門5名、英語部門5名、計10名の弁士が熱弁を振るいました。

この弁論大会は「表現力、語学力の向上」「同世代間の考え方・価値観の共有」などを目的として開始され、今回で21回目を迎えました。本大会は、学内レベルの大会としては類を見ない規模で、外資系ホテル総支配人や業界企業トップの方などゲスト審査員18名を迎えて実施されました。

厳正な審査の結果、日本語部門最優秀賞は、昼間部ホテル科2年篠田 彩央里さん、英語部門最優秀賞は、昼間部英語専攻科1年兼山 智雅さんが獲得し賞状と記念の盾が石塚校長から手渡されました。

また、副賞として日本語部門最優秀賞受賞者には、日本スターウッドホテル㈱グローバルセールス本部長日本・韓国地区の矢島 隆彦氏より「セント レジス ホテル 大阪の宿泊券」、英語部門最優秀賞受賞者には、ザ・リッツ カールトン東京総支配人のアイヴァン ディーチー氏より「ザ・リッツ・カールトン東京宿泊券」が贈られました。

弁論大会 審査員

株式会社MT J-ホスピタリティ	代表取締役	田中 勝 様
株式会社オータパブリケイションズ	代表取締役社長	太田 進 様
株式会社柴田書店 月刊「ホテル旅館」	編集長	武田 真理子様
株式会社プリンスホテル	顧問	小林 信次 様
グランド ハイアット 東京	取締役総支配人	Mr. Christophe Lorvo
公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	専務理事	野田 兼義 様
ザ・ペニンシュラ 東京	料飲部長	Mr. Kieron Hunt
ザ・リッツ・カールトン東京	総支配人	Mr. Iwan Dietschi
シャングリ・ラ ホテル 東京	副総支配人兼料飲部長	Mr. Milan Drager
日本スターウッドホテル株式会社	グローバルセールス本部長	矢島 隆彦 様
パーク ハイアット 東京	総支配人	Mr. Philippe Roux-Dessarps
パン パシフィック 横浜ベイホテル東急	総支配人	小林 秀樹 様
フォーシーズンズホテル椿山荘東京	ホテルマネージャー	岸 琢也 様
フォーシーズンズホテル丸の内 東京	総支配人	Mr. Daniel Simon
フォーシーズンズホテル丸の内 東京	人事マネージャー	高橋 克幸 様
ホスピタリティツーリズム専門学校	校長	中村 裕 様
ラディソンホテル成田	総支配人	Mr. Brent Baily
六本木ヒルズクラブ	総支配人	Mr. Samuel Dabinett

ザ・リッツ・カールトン東京 総支配人からディナー招待
～弁論大会出場者10名～

弁論大会にゲスト審査員として参加したザ・リッツ・カールトン東京総支配人Iwan Dietschi氏の招待を受け、日本語部門、英語部門本選出場者10名がディナーに参加しました。

意見交換会

この招待は、本年度の弁論大会に審査員として参加したDietschi氏が、弁論の内容、弁士の表現力などに感銘を受け、ぜひ学生の栄誉を称えたいということで実現したものです。

当日は急な出張のため欠席となったDietschi氏に代わり、副総支配人のKris Kaminsky氏と、和やかな雰囲気 の中、ディナーを楽しみ弁論内容などについて意見交換を行いました。

Kris Kaminsky氏を囲んで

第30回 全国専門学校英語スピーチコンテスト
～ホテル科2年　若原くみ恵さんが出場～

第30回全国専門学校英語スピーチコンテストが12月3日、中央区立日本橋公会堂で開催されました。日本ホテルスクールからは昼間部ホテル科2年 若原 くみ恵さんが出場しました。

本大会は、全国専門学校から選ばれた11校の代表者が、各自設定したテーマを基に英語でスピーチ、内容は、時事問題や現代社会の抱える問題など様々で、どの出場者の内容も聞き手に共感や関心を抱かせるようなメッセージのある弁論でした。

若原さんは、「Feel the season（四季を感じて）」というテーマで、日本の四季の美しさを伝えました。惜しくも入賞できなかったものの、日本の四季の良さを海外から見た視点で捉え、聴衆の心を温めるような和やかな内容でした。

石塚校長（中央）、応援に駆け付けた友人と
井上先生（右から2番目）

この大会は全国語学ビジネス観光教育協会の主催、文部科学省などの後援で毎年12月上旬に開催されているものです。

サービスコンクールの最高峰「クープ・ジョルジュ・バティスト」
～日本代表　河野秀次郎さん　そして世界大会第５位入賞～

フランス料理のサービス技術の世界一を決めるコンクール「クープ・ジョルジュ・バティスト」が、11月８日、日本で初めて開催されました。

この大会は、日本、フランス、スペイン、ポルトガル、スイス、デンマーク、アイルランド、ルクセンブルグ、フィンランド、ポーランド、スロベニア、カナダ、ベトナムの 13 か国から選ばれた各国代表選手が 8 種目の実技試験と筆記試験で競う「レストランサービスの五輪」と呼ばれる大会です。

学生部門の日本代表に選ばれた、英語専攻科２年 河野 秀次郎さんは１年以上の間練習を重ね、ヨーロッパの強豪がひしめく中、見事世界コンクール総合第５位という結果を残しました。

コンクール当日は、母国語以外の言語（フランス語か英語）を選択し会話をしなければなりません。また、審査は実技毎に 15 分の制限時間があり、各国審査委員が厳しいチェックをする張りつめた緊張感の中、河野さんは本番でも堂々と課題を行ない、丁寧かつ大胆に披露しました。特に、「小海老のカクテルの実技」と「サーモンのタルタルの実技」の 2 種目に関しては第 1 位の結果、「仔羊のデクパージュの実技」でも第２位となり、お客様の前で演出するテクニックにおいては、学生部門でトップの成績を収めました。

課題「仔羊のデグパージュ」実技

課題「ワインテイスティング」実技

各国代表選手
（前列 プロ部門選手、後列 学生部門選手）

運営ボランティア学生へ感謝状

「クープ・ジョルジュ・バティスト」の運営の手伝い、ガラディナーでサービスした本校学生７名に中村 裕実行委員長より感謝状が授与されました。

中村 裕実行委員長は「ボランティアの皆さんが世界大会を成功に導いたと言っても過言ではありません。学生の皆さんにも良い経験になったかと思います。この世界大会は料飲について理解を深める機会にもなると思います」とお話しされました。

中村裕実行委員長、石塚 勉校長と感謝状を授与された学生

ザ・ペニンシュラ東京 総支配人から感謝状
～国際通貨基金（IMF）年次総会をサポート～

10月8日～14日まで開催された国際通貨基金（IMF）年次総会のサポートを行ったことから、ザ・ペニンシュラ東京　総支配人Mr. Malcom Thompson氏より、英語専攻科2年生22名に感謝状が贈られました。

感謝状は、ザ・ペニンシュラ東京 人材開発部相談役 中谷 恵一氏より学生一人ひとりに手渡されました。

感謝状を手に！中谷 恵一氏を囲んで

学生たちは、総会開催中、料飲部門や宴会部門などを手伝い、国際会議のサポートに初めて携わったことで、今後ホスピタリティ業界で活躍する第一歩を踏み出したようでした。

卒業式典を挙行
～国際ホテルマネジメント専科～

担任の川辺先生、ご来賓の皆様と

国際ホテルマネジメント専科の卒業式典を 10 月 11 日、セルリアンタワー東急ホテルで挙行しました。

大学とのダブルスクールや、大学卒業後に入学してきた17名の卒業生に、石塚 勉校長から卒業証書が手渡されました。

今年の卒業生も帝国ホテル、パーク ハイアット 東京、グランドハイアット 東京、日本ホテル（株）などの国内の有名ホテルに内定や海外ホテル研修生としての渡航を決めるなど全員の進路が決定しています。

１年生　就職活動開始
～OB・OG フェアを開催～

これから始まる就職活動に備え、ホテル・ブライダル・レストランの現場で活躍する卒業生の話を聞く「OB・OG フェア」を開催しました。

卒業生からは、勤務先の紹介を始め、仕事内容、仕事のやりがいや大変さ、採用試験の経験談、就職活動に取り組む上でのアドバイスに真剣に耳を傾けていました。

就職内定率好調　１月末現在　91.0%！

本年度の求人数は震災の影響を受けた昨年度より 20%増となり、1 月末時点で就職率は 91.0%、就職未決定者 9.0%を残すのみとなりました。

進路指導室では、学生と力強いタッグを組み、卒業式までに全員の内定獲得に向けて奮闘中です！

合同企業説明会「就職フェア」

2年生　秋の恒例行事 “体育祭”を実施
～台東リバーサイドスポーツセンター～

2012 年度体育祭を 10 月 26 日に東京浅草の台東リバーサイドスポーツセンターにて開催しました。

当日は、快晴の中、東京スカイツリーを背に「大玉ころがし」に始まり、くじ引きで走者が選ばれる「サプライズリレー」、仮装後にはカメラマン賞が用意された「仮装リレー」、投げた球を段ボールでキャッチする「人間玉入れ」、先生たちも何度も借りられた「借り物（人）競争」、そして締めくくりはホテスクオリジナル、優勝予想したクラスに投票する形式のリレー「TOTO リレー」など、17 種目の競技を行いました。

優勝した２年Ｇクラス

クラス担任も大健闘

Ｈクラス担任　神保先生

Ｂクラス担任　安本先生

Ｉクラス担任　斉藤先生

Ｊクラス担任　樋上先生

Ｇクラス担任　中島先生

卒業生による特別授業を実施
～英語専攻科１年生～

ザ・リッツ・カールトン東京 マネージャーによる和食特別講義

石野 佳久氏と英語専攻科１年生

ザ・リッツ・カールトン東京 会席レストラン「ひのきざか」のマネージャー 石野 佳久さん（1994 年卒業）をお迎えし、英語専攻科１年を対象に学校行事「和食体験＆ホテル見学会」前の和食特別講義を実施しました。

講義内容は、「懐石料理」と「会席料理」の違いから始まり、和食を食べるために最低限必要なマナー、和食の面白さや素晴らしさ等、多岐にわたりました。中でも、外国人ゲストがよく利用するザ・リッツ・カールトン東京の日本料理レストランでは、「和の味」をどのようにして外国人ゲストに伝えるか、あるいは日本にはあるけれども外国にはない食材（特に魚介類）をどのように説明するのか等、外資系ホテルならではの貴重な話を学生に伝えていただきました。

海外留学編入制度：フィリピン
～パーペチャル・ヘルプ・システムズ大学説明会を実施～

Richard Moran 大学顧問

今年 7 月に連携基本合意を交わし、海外大学編入学制度をスタートさせたパーペチャル・ヘルプ・システムズ大学（UPH）の Richard Moran 大学顧問が来校、昼間部 1 年生の海外留学希望者と英語専攻科 1 年生に対し編入学制度説明会を実施、UPH の魅力や編入学のメリット、そして将来どう役に立つかなど、学生に力強く説明しました。

Richard 氏が学生に向けて伝えたキーワードは「Globally Competitive（世界レベルにおいての激しい競争）」でした。世界中に存在し、今後ますます激しい競争になるホテル業界において、語学力、専門知識、幅広い視野等の必要性を将来を担う学生に対し伝えました。参加した学生は説明を熱心に聴き、UPH 在学中の住環境や日本人の比率等、質問していました。

熱心に説明に耳を傾けメモを取る学生

留学編入制度：カナダ
～ダグラスカレッジより関係者が来校～

海外留学制度の留学先のひとつであるダグラスカレッジより Paul R.Wates 会長、Guangwei Ouyang 副学長、外国人留学生担当 Melanie 先生が来校、2012 年度に新たにスタートした留学プログラムについての課題と来年度の改善点など、さまざまな視点から意見交換を行いました。

Paul R.Wates 会長

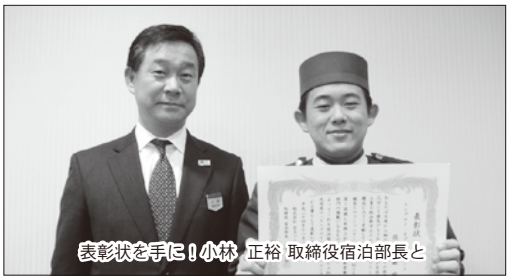
ダグラスカレッジへの留学が初年度となった今年は、両校にとってチャレンジの年であり、学生の語学力向上のためのプログラムづくりや学生の留学生活が充実するように両校で協力した年でもありました。

左から Guangwei Ouyang 副学長、武内副校長、Wates 会長、Melanie 先生、江口先生、石塚理事長、川上教育部長

今回の Wates 会長と Ouyang 副学長の来校は、そこから見えた課題や改善点を話し合う良い機会となり、次年度に向けてさらに協力関係が築けるようにお互いが確認しました。

トピックス

エンプロイ・オブ・ザ・マンスを受賞
～京王プラザホテル入寮研修生～


表彰状を手に！小林 正裕 取締役宿泊部長と

入寮研修生制度を利用し、京王プラザホテルで働きながら通学する、夜間部ホテル科１年 佐々木駿さんが、同ホテルで９月度のエンプロイ・オブ・ザ・マンスを受賞しました。

佐々木さんは宿泊部ロビーサービス（ベルマン）として、日々ホスピタリティマインド溢れる応対を心掛け、御礼の手紙をいただく等お客様よりたくさんの高評価をいただき、その功績が認められ、取締役宿泊部長 小林 正裕様より賞状が贈られました。

～ＪＨＳ同窓会便り～

第 73 回スコールクラブ 世界大会を韓国で開催
～60 か国 150 クラブ 500 名が参加、成功裏に閉幕～

10 月 2 日～ 7 日、第 73 回 スコールクラブ世界大会(Skal World Congress 2012)が韓国のインチョン及びソウルの両市で開催され、世界 60 か国 150 クラブから約 500 名が参加、総会、研修、B2B、交流会、観光地視察などが行われました。

韓国は、数年前から、韓国観光公社、インチョン、及びソウルの両市、ビジットコリア実行委員会、韓国食品協会、大韓航空などが支援し、国を挙げてスコールクラブ世界大会の開催地候補に名乗りをあげて誘致に努め、一昨年のシドニー総会でアイルランドとのプレゼン合戦に勝ち、開催が決定しました。

この 5 泊 6 日の世界大会を通じて、韓国の観光、文化、経済、更にインチョン国際空港の優位性、ＩＴの先進性、ソウル市やインチョン市など近代都市への環境整備状況等々を全体的に紹介、観光客や国際会議の誘致のみならず、近代国家としての韓国の魅力を世界にアピールしました。

ナイジェリアからのスコールメンバーと一緒に

なお、2013 年度総会はニューヨークで、2014 年度総会はメキシコで開催される予定です。

今回、日本の東京クラブ 9 名、名古屋クラブ 9 名、大阪クラブから 1 名、計 3 クラブ 16 名が参加、財団・ＪＨＳからは石塚 勉理事長・校長が出席しました。

プレジデント主催のガラディナー
グランドハイアット・ソウルにて

スコールクラブ

スコールクラブは、1932 年、仏人のフロリモンド・ボルガード氏の提唱により、パリ旅行業関係者 53 人の交流、親交を図る目的で創設されたが、以来、世界各地に地区単位のクラブが創設され、現在 80 カ国、450 地区 2 万人の会員を擁し、旅行、航空、ホテル、バス、オペレーターなどさまざまな旅行・観光業界のメンバーで構成され、世界の観光業界人のネットワークを推進する大きな民間の国際組織となっています。

第 2 回ソムリエ・スカラシップに卒業生が入賞！
～2007 年卒業 長谷川 大地さん～

一般社団法人日本ソムリエ協会主催「第 2 回ソムリエ・スカラシップ」公開最終審査が 10 月 15 日に行われ、ザ・リッツ・カールトン 東京に勤務している卒業生 長谷川 大地さん(2007 年卒)が優秀者 3 名に入賞しました。

「ソムリエ・スカラシップ」とは、27 歳までが参加できる若手ソムリエの登竜門と言われる大会。長谷川さんは昨年の第 1 回大会も参加しましたが、惜しくも受賞することはできませんでした。その悔しさをバネに 1 年間猛勉強。毎日数時間の自宅での学習と、仕事の合間を縫って試飲会に参加し、常に IC レコーダーを持ち歩きワインや食べ物などの感想をその場で録音し、帰宅後ノートにまとめるという努力を重ねたそうです。

今回その努力が実り、優秀賞を受賞することができました。

優秀賞で得たフランス研修を機に、12 月からはフランス語も習い始め、世界に通用するソムリエをめざすと今後の抱負も語ってくれました。長谷川さんのさらなる活躍期待しています。

川上副校長と長谷川 大地さん

第 39 回 JHS 同窓大学・九州開催のお知らせ

「JHS同窓大学」は、同窓会活動の一環として、同窓生の相互交流、生涯教育など、同窓生相互の絆を結ぶ活動として1996年度発足、翌年から活動を開始、年2回の開催を基本に今までに38回、延べ約600名の卒業生が参加しています。

第 38 回 勉強会風景

39回目となる「JHS同窓大学・九州」を下記の日程で開催致を予定しております。卒業生の皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：3月16日（土）午後を予定
場所：長崎 ホテル日航ハウステンボス

以上

■同窓大学に関するお問い合わせは同窓会事務局まで
担当：下田憲司 TEL:03-3360-8231 FAX:03-3360-8584

トピックス

卒業生のインタビュー記事が掲載されました
～『ホテル業界就職ガイド 2014』～

ホテル業界への就職をめざす方のためのバイブル『ホテル業界就職ガイド 2014』(株式会社オータパブリケイションズ発行)の“Cover Story”に、ザ・ペニンシュラ東京で活躍している大橋 香里さんのインタビュー記事が掲載されました。

表紙 大橋香里さん

その他、大場 正久さん（ザ・ペニンシュラ東京・副総支配人）、重信 夏希さん（マンダリン オリエンタル 東京・ウエディングセールス コーディネーター）、柳田尚征さん（シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル・ベルサービスキャプテン）が“ホテルの仕事”紹介ページで紹介されています。

是非ご覧ください。

財団ニュース

第2回　学生観光論文コンテスト
～賞金総額 100 万円　受賞者決定～

財団法人日本ホテル教育センターは、社団法人全日本シティホテル連盟の協賛を受けて、公益財団法人日本ナショナルトラストとの共催で、全国の大学・短期大学・専門学校の学生を対象とした「第２回　学生観光論文コンテスト」を実施、応募総数 61 編の論文から、最優秀賞１編、優秀賞２編、合計３編、賞金総額１００万円の受賞者が決定しました。

最優秀賞【観光庁長官賞】
学習院大学　法学部政治学科３年　岡本 成敦さん・長谷川 裕さん
『観光情報提供のありかた～設備としての Wi-Fi と情報の質としての Couchsurfing（カウチサーフィン）～』

優 秀 賞【公益財団法人日本ナショナルトラスト会長賞】
神戸夙川学院大学 観光文化学部観光文化学科３年 歴史文化ツーリズム高根沢ゼミナール　上月 良子さん　他６名
『震災関連行事に対する人々意識の変化とその観光資源化の問題～阪神・淡路大震災の伝承、神戸ルミナリエを事例として～』

優 秀 賞【社団法人全日本シティホテル連盟会長賞】
創価大学 経営学部経営学科３年 岡田ゼミナール　森合 央さん　他５名
『「カジノ導入による災害復興」及びカジノを未来の東北観光の主要産業へ』

第１回学生観光論文コンテスト表彰式風景
前観光庁長官　溝畑 宏 氏を囲んで

受賞理由など審査の総括を本財団の WEBサイト上で公開しています。
http://www.jec-jp.org/

JICA 視察団が研修の一環で来日
～観光振興とマーケティング「ホテル業界事情と教育について」～

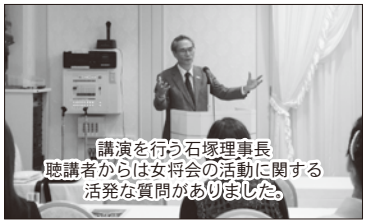
JICA 視察団の皆様と学校関係者

国際協力機構（JICA）よりホテル業界と観光についての講義の依頼受け、11 月 21 日、観光マーケティングを担当する 4 ヵ国（アゼルバイジャン共和国・グルジア・モルドバ共和国・ウクライナ）13 名の担当者を受け入れました。グループの受入は、9 月に続き今回で 2 度目。来日された 13 名は、この研修を通して観光振興にかかわる自国の課題を整理し、対日観光振興マーケティングが所属組織に於いて共有されることを最終目的とされているようです。

学生の案内で JHS 施設を見学

専門学校日本ホテルスクールで実施した講義は、武内副校長により『日本のホテル業界事情と教育について』と江口教官より『本校の教育概要』についての説明がありました。来日された方々は、自国との教育の違いやホテル業界について、また日本ホテルスクールの教育制度について積極的に質問されていました。

JPA　旅館文化で講演
～日本旅館国際女将会の活動語る～


講演を行う石塚理事長
聴講者からは女将会の活動に関する活発な質問がありました。

日本文化海外普及協会（JPA）と日本人の姿を語り継ぐ会の依頼により、日本旅館国際女将会アドバイザーでもある石塚 勉理事長が講演を行いました。

石塚理事長は国際女将会を始めたきっかけについて「日本文化が凝縮されている日本旅館と和服姿の女将を海外に紹介する事で、諸外国に日本への理解を深めてもらいたい、『RYOKAN』『OKAMI』を国際語にしたい、という強い思いと使命感だった」と語り、約 2 時間に渡り女将会の活動について講演を行いました。

「日本旅館国際女将会」は石塚理事長の呼びかけで女将約 50 名で発足、1995 年パリを皮切りに 15 年間かけて海外主要都市を訪問、各国でテレビ出演、大使館訪問、日本文化紹介イベント、記者会見などを行い、民間外交で一定の役割を果たしてきました。

聴講者からは「歴史と伝統に培われた旅館文化は日本のアイデンティティ。海外へ伝える意義は大きい」などの声がきかれ、内容の濃い講演会となりました。

日本旅館国際女将会
Okami Association of Japanese Ryokan

1995 年、日本旅館国際女将会は、日本旅館の文化を海外に広く紹介し、訪日外国人旅行者の拡大促進に努めると共に、会員相互の親睦と情報交換をとおして、旅館の品質向上と旅館業の国際化を図り、本会及び旅館業界ならびにわが国の観光業界の健全な発展に寄与することを目的として設立されました。「Ryokan」「Okami」の二文字が国際語として通用することを目指しています。本部を日本ホテル教育センター内に置いています。

トピックス

和食マスター（Master of WASHOKU）認定バッジ発行

和食検定基本レベル１級、実務レベル１級の認定を受けた方を対象に『和食マスター認定バッジ』を発行しています。

◆和食マスターとは
“和食マスター（Master of WASHOKU）”は、和食の正しい知識の普及と、和の食文化の次世代への伝承役として、また国際文化交流を進める牽引役として指導的な立場での活躍を期待される方々です。基本レベル 1 級認定者にはシルバー、実務レベル 1 級認定者にはゴールドのバッジを用意しています。

※※バッジのお申し込み
検定に関するお問合せ
TEL:03-3367-5663
http://www.washokukentei.jp

◇◇◇◇ JHSたより 47号 ◇◇◇◇
編集責任者：石塚　勉
編 集 担 当：黒沢由美子
連　絡　先：03-3360-8231
kurosawa@jhs.ac.jp